

## 第1次芦北・人吉ボランティア

期間：2020年7月4-5日

参加者：神戸国際支縁機構 岩村義雄, 村上裕隆, 本田博之

### (1) 隣人愛の枠は他宗派に拡げる

国宝である青井阿蘇神社の正面にある蓮池には、乗用車が転倒して串刺しになっていました。私たちが神社に着いた時、一人の氏子さんが自嘲気味に、「神さまより、水の方が強かばい」と言われました。大阪府岸和田市の土生神社(はぶじんじゃ)の阪井健二宮司に依頼され、お会いした福川義文宮司(56歳)は朝5時に神社で日供(にちぐ)する時はなんともなかったのが、急に、水が増してきたので、家に戻り、二階に避難したものの二階で膝まであふれてきた、と恐怖体験を語って下さいました。



青井阿蘇神社福川義文宮司(56歳)

他にも金光教太良木教会、鏡教会を訪問。人吉市の高野寺は土砂が覆い、大きな被害でした。「寺院消滅」、「神社消滅」、そしてキリスト教会の無牧と言われる時代、かつてアメリカンボードが宣教師を日本に遣わす際、キリストを信じない魂は地獄に行くことを信じているかどうか、というリトマス試験紙は御免被りたいです。排除的な傾向があれば、どんなに全国的な組織、活動、知名度が高くても、結局は狭量な原理主義と言えましょう。

したがって、無宗教の日本で、口先だけの隣人愛はすぐに見破られます。むしろすすんで寺院、神社、異教徒の信心の館にも愛を拡大すべきです。

## (2) 国策の技術の罨に警戒

一級河川球磨川の氾濫について、泥で覆われた人吉市ではダムが問題ではないと言われる方が多いです。しかし、球磨川上流の「市房ダム」(1960年)、多量の泥水が放流されていました。



<https://youtu.be/vEOHzHKpj-c>

ダムは数年で泥などが堆積します。決壊を防ぐために、人吉方面へ流していると思えない勢いでした。なぜ人吉市の人々は4日午前9時半にダム放流を中止するという国交省側の言い分を信じているのか不可解です。1966年に、球磨川の支流である川辺川に国交省が九州最大のダムを建設しようとしたことがありました。1966年、五木村の住民たちが反対したこともあり、川辺川にダムは建設されませんでしたけれど、40年以上、人吉をはじめ球磨川流域にはダム賛成か反対の対決が尾を引きました。

地球温暖化、異常気象、二酸化炭素などの放出に思いがふさがれてはいけません。技術偏重による効率、能率、便利さは現代の鬼門です。

## (3) 地域住民による民間ボラセン

人口3万3,460人が住む人吉市は210.6 km<sup>2</sup>の面積があります。ほぼ全域にわたり、泥で覆われていました。マンパワーが必要です。

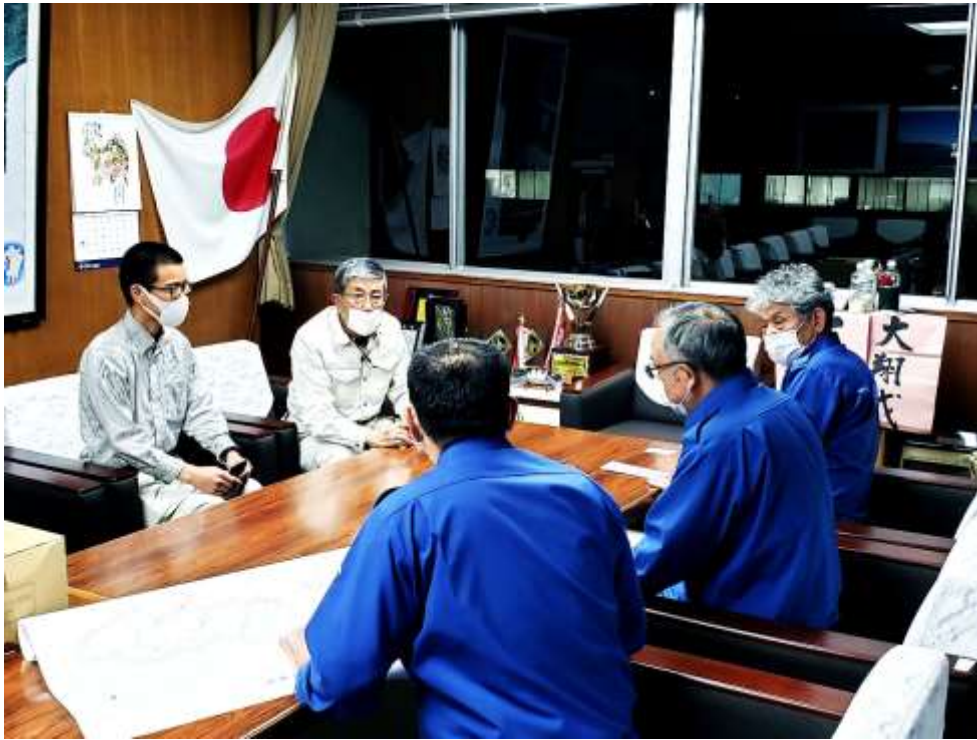


昨年の台風19号通過直後の福島県いわき市、宮城県丸森町と同じように、ボランティアではな



く、家族・親戚・友達総出で泥を掻き出しています。高齢化の日本で、不慣れな作業をなさっている高齢者を見るのは僥倖ありません。しかし、広域にわたる場合、被災地にボラセン(ボランティア・センター)ができるまでに、がれき撤去などに取り組むのは、やはり隣人・家族になります。これからの時代のボランティアは、一番目に「受縁力」、二番目に、民間ボランティア・センター、三番目に、災害救助法の説明・手続きを本来の「公共」である市民が担うようにしたらどうでしょうか。

三つのことを人任せにするのではなく、自立した市民それぞれが、隣人愛に基づいて扶助し合うコミュニティをつくる転換点です。



葦北郡芦北町役場  
町長室  
2020年7月4日



熊本県芦北町大字田川の牛淵地区。数時間の豪雨で民家2戸が土砂崩れの下敷きになりました。入江竜一さん(42歳)と母親のタエ子さん(69歳)、隣家の堀口ツギエさん[93歳]が私たちが訪問した午後8時過ぎには消防隊員がブルーシートでくるんで搬出した後でした。もう一名を懸命に探索中でした。